

○ 本校の概要

学校規模…児童数 588名 学級数 18学級 サポートルーム(特別支援教室)拠点校
 目指す学校像…学力・心・身体がバランスよく成長している健康な子供が育つ学校
 校内研究テーマ…基礎基本を大事にして 確かな理解をめざす～国語科におけるユニバーサルデザインと個別の支援の視点を取り入れた授業づくり～

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者評価 コメント
プラン1 生きる力 未来の社会 の育成を 創造的に	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化に なやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とコミュニケーション能力の育成等を図っている。 学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。 体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:タブレットを使って、授業で知りたいことを調べることができるという3年生以上の児童が80%以上。 3:タブレットを使って、授業で知りたいことを調べることができるという3年生以上の児童が75%以上。 2:タブレットを使って、授業で知りたいことを調べることができるという3年生以上の児童が60%以上。 1:タブレットを使って、授業で知りたいことを調べることができるという3年生以上の児童が60%未満。	2	【取組】・ALTには、給食も一緒にとりながらコミュニケーションを図ってもらっている。 ・昨年度の電子黒板に引き続き、今年度は大型提示装置も電子黒板未設置教室に導入されたので積極的に活用している。 ・体力の向上のための月間を設定したことで、児童も進んで活動していた。 ・マラソンの期間、取組の仕方はよい。 【改善策】・ALTとのTTにおいて効果的な助言等ができるように、準備を進めていく。 ・体力向上の取組として、授業の初めに「3分間走」を行うことを確認、徹底する。 ・本による調べ学習を重視していたが、今後はタブレット等のICTを使う機会をより増やしていく。	○取組評価に比べて、成果評価は低すぎると感じた。導入が完了した大型提示装置や電子黒板の高度の利用は、生徒たちの理解度を引き出す良い事例となったと感じた。 ○タブレットでの調べ力を育てることも必要であるが、本で調べることも大切にしたい。
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。 算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。 学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。 授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:3学期のベーシックドリルの2～6年生の平均正答率が全学年で80%以上。 3:3学期のベーシックドリルの2～6年生の平均正答率が4学年で80%以上。 2:3学期のベーシックドリルの2～6年生の平均正答率が3学年で80%以上。 1:3学期のベーシックドリルの2～6年生の平均正答率が3学年で80%未満。	3	【取組】・1学期末の面談で児童の苦手な単元と復習するべき所を伝え、夏休みに取り組ませるようにした。 ・ステップ学習の結果を知らせることで、保護者に児童の苦手な学習内容を把握してもらうことができた。 ・算数の補習をする中で、学習内容の定着に繋がっている状況が見られる。 【改善策】・夏の個別の面談が、2学期の指導に生かせるようにしていく。 ・年度当初にチェックシートの見方、評価の仕方を説明しているが、保護者のより良い理解に繋がるように今後も丁寧に伝えていく。 ・たしかめプリントの内容が授業内容とリンクしていないものがある。授業でのより良い活用ができるように改善を求めていく。 ・授業改善推進プランを学期始めや終わりに確認し、活用していくようにしていく。	○漢字検定について、入二小ではとても熱心な取組をしている姿がある。学力向上につながる良い取組である。
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、 自他の生命を尊重する心や未来への希望に満ちた豊かな心を はぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、 社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。 道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。 学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。 学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。 問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:児童アンケートで、自分は学校や学級や家庭や地域で、役立つことができているという肯定的評価が90%以上。 3:児童アンケートで、自分は学校や学級や家庭や地域で、役立つことができているという肯定的評価が80%以上。 2:児童アンケートで、自分は学校や学級や家庭や地域で、役立つことができているという肯定的評価が60%以上。 1:児童アンケートで、自分は学校や学級や家庭や地域で、役立つことができているという肯定的評価が60%未満。	2	【アンケート回答者数】583名中403名 【取組】・小中一貫教育の会等で、他の学校の生活指導の取組を聞き、本校での取組にも活かすようにしている。 ・メンタルヘルスチェックによって、児童の困りっていることを知り、状況に応じてスクールカウンセラーとつなげることができた。 ・人権尊重・いじめ防止に関するポスター等を作成することで、いじめについて考える機会をつくった。 【改善策】・あいさつ、言葉遣い、返事、教室移動については、その都度指導し、徹底する。(機を逃さない、教員自らが行動する) ・学期の始まりの欠席状況には特に注意して様子を見る。家庭との連絡を密にする。 ・メンタルヘルスチェックについては、良い成果をあげているので、今後も結果を活かした指導を全体で行っていく。 ・評価する際の児童への質問の意味が伝えにくかったようで、具体的な内容にしていく。係、委員会はよく取り組んでいるが、自己有用感に繋がっていないので、良さを具体的に伝えていく。	○入二小の生徒の全体的な印象は、自己肯定的で正義感を持つ力が感じられる。こうした指導の成果を見ると、成果評価の2は低すぎると思い、適切ではないと思う。 ○挨拶は子供の心を開かせる大切なもの。近隣校では大人が率先して挨拶をすることで、子供たちの挨拶の態度がとても向上している例もある。 ○幼稚園、保育園等のかかわり方についてはどうなっているのか。挨拶の指導こそ、幼稚園や保育園との連携で、小さいうちから指導を徹底していくべきだと思う。 ○学校は心のふるさとである。児童の学校に行きたいと思う気持ちが薄れているかもしれない。道徳的な実践力は家庭で育つ。保護者は愛ある叱ること怒ることも必要である。
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。 給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。 体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:マラソン強化月間において、95%以上の児童がマラソンカードの1枚目を達成できる。 3:マラソン強化月間において、85%以上の児童がマラソンカードの1枚目を達成できる。 2:マラソン強化月間において、70%以上の児童がマラソンカードの1枚目を達成できる。 1:マラソン強化月間において、70%未満の児童がマラソンカードの1枚目を達成できる。	1	【取組】・保護者の中には、「早寝・早起き・朝ごはん」月間のねらいをよく捉えて積極的に取り組んでくれた方が多くいた。 ・栄養士を中心に「食育」への取組を行っている。 ・休み時間は十分に確保し、外遊びを奨励してきた。 ・月間を設定することにより、進んで取り組む児童も多くなった。 【改善策】・現在の「食育」の計画が大変細かいので、学年の実態に合わせた重点項目を決め、指導を充実させていく。 ・クラブ活動が1ヶ月間以上ないことがあった。継続的な活動のためにコンスタントな日程を組めるようにする。 ・今回のマラソンカードは、設定期間の中で1枚達成するのは、難しいカードであった。期間設定やカードの内容等を踏まえた成果指標の見直しが必要である。	○休み時間に校庭に出て活発に動き回っている姿を見ると、健康で健全な心の育ちが感じられる。 マラソンカードの成果から1の評価は全体を見る必要があると思う。 ○「1」は、きびすぎるのではないかと。 ○大田区小学校駅伝大会において毎年ベスト3位以内に定着している実力は素晴らしいと思う。そういうところを評価してあげるべきだと思う。目標設定が厳しすぎるのではないかと。
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、 教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりまします。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。 授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。 各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。 校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:保護者の学校評価アンケートの設問「学校は、地域の人材や施設を教育活動に生かしている」に肯定的評価をした保護者が90%以上。 3:保護者の学校評価アンケートの設問「学校は、地域の人材や施設を教育活動に生かしている」に肯定的評価をした保護者が75%以上。 2:保護者の学校評価アンケートの設問「学校は、地域の人材や施設を教育活動に生かしている」に肯定的評価をした保護者が60%以上。 1:保護者の学校評価アンケートの設問「学校は、地域の人材や施設を教育活動に生かしている」に肯定的評価をした保護者が60%未満。	3	【アンケート回答者数】402名中339名 【取組】・今年度も主任教諭を中心にOJTを実施し、良い学び合いができた。 ・区教育研究会の研究研修の成果を授業改善に活かすことができた。 ・校内委員会は定期的に実施した。 【改善策】・授業公開アンケートには肯定的・協力的な意見が多いが、課題となる点も書かれるので、改善に活かしていく。 ・OJTの時間に若手教員が確実に参加できるように、体制を整える。	○学校公開の授業は年々向上しており、先生の研究が強く感じられる。学会や運動会での活動に凝縮されていると感じた。 何より特筆すべきは、スピーチ大会では生徒の意見・主張が強く打ち出されていた。この伝統ある取組をこれからもぜひ続けていただきたい。
プラン6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。 また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。 地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。 学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4:保護者の学校評価アンケートの設問「家庭は、学校やPTA・地域の活動や行事によく参加している」に肯定的評価をした保護者が90%以上。 3:保護者の学校評価アンケートの設問「家庭は、学校やPTA・地域の活動や行事によく参加している」に肯定的評価をした保護者が75%以上。 2:保護者の学校評価アンケートの設問「家庭は、学校やPTA・地域の活動や行事によく参加している」に肯定的評価をした保護者が60%以上。 1:保護者の学校評価アンケートの設問「家庭は、学校やPTA・地域の活動や行事によく参加している」に肯定的評価をした保護者が60%未満。	4:保護者の学校評価アンケートの設問「家庭は、学校やPTA・地域の活動や行事によく参加している」に肯定的評価をした保護者が90%以上。 3:保護者の学校評価アンケートの設問「家庭は、学校やPTA・地域の活動や行事によく参加している」に肯定的評価をした保護者が75%以上。 2:保護者の学校評価アンケートの設問「家庭は、学校やPTA・地域の活動や行事によく参加している」に肯定的評価をした保護者が60%以上。 1:保護者の学校評価アンケートの設問「家庭は、学校やPTA・地域の活動や行事によく参加している」に肯定的評価をした保護者が60%未満。	3	【アンケート回答者数】402名中309名 【取組】・ホームページは、学校行事、集会活動、給食等については、随時更新している。 ・地域教育連絡協議会では、児童の活動を実際に見ていただく機会を多くつくるとともに、年度末には、具体的な取組の状況を数値等でも示し、評価を受けるようにしている。 ・学校支援地域本部は、適宜学校と連携をとり、夏のわくわくスクールを初め、地域の花壇整備や赤ちゃん体験授業の実施等、学校独自では実施が難しい活動に積極的に取り組んでもらっている。 【改善策】・地域教育連絡協議会の活動は教職員全体には見えにくい面もあるので、実施した内容について、職員打合せ等の時間の中で確実に伝えるようにしていく。	○「スナッグゴルフ」を通して、「人に優しく」「自分に正直に」という心情を育てるようになってきた。子供たちにそれが伝わっていると良いが、不登校の支援については、地域と学校が連携して取組を行ってほしい。 ○最近、通称プリン公園で5時を過ぎても遊んでいる子供を見かけるとの話も聞いている。

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
 ○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
 ○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載す